

令和4年3月18日(金)開催  
第59期 定時株主総会

「主なご質問内容とご回答」



## 事前質問

Q1

同一労働 同一賃金とジョブ型雇用の導入について

A1

(代表取締役社長 中山)

当社の人材育成の方針として、専門家を育成するというよりも、頻繁にジョブローテーションを実施し、総合力の高い人材育成に重点を置いている企業です。転職の時代ですが、当社は75歳まで働くことのできる制度が整っているため、当社で働き続けてほしいと願っています。これらのことから同一労働、同一賃金、ジョブ型雇用は当社の方針にそぐわないという考えですので、導入は検討しておりません。

Q2

多様性のある人材登用について

A2

(代表取締役社長 中山)

当社には育児休暇制度3年(法定1年)をはじめ女性が長く働ける制度が多くあります。可能なかぎり早く女性の執行役員や、女性の取締役など、生え抜きの従業員からの誕生を願っています。

Q3

グローバルな事業展開について

A3

(代表取締役社長 中山)

約10年前にトラスコナカヤマ タイランドを開設いたしました。10年経過した現在、トラスコナカヤマ タイランドの売上高は7億円程度ですが、国内市場は10年間で1,000億円以上売り上げを伸ばしています。また、当社の取り扱う商材は工作機械とは違い消耗品のため、すでに各国へ販売代理店をお持ちのメーカー様が多いので、参入が難しいのが現状です。プライベート・ブランド商品の輸出チャンスはあるかと思いますが、国内市場もまだまだ開拓の余地がありますので、今後についてもまずは国内をメインに機能強化を図りたいと考えています。

Q4

カーボンニュートラルへの対応について

A4

(代表取締役社長 中山)

修理工房「直治郎(なおじろう)」によるリサイクル・リユース・リターナブルサービスをはじめ、「MROストッカー」、「ユーザー様直送」によるサプライチェーンの効率化など、会社の仕組みがエコを意識しています。また、従業員に向けて「環境破壊の主役は『あなた』です！」というテーマの冊子を制作し、一人ひとりの環境意識の向上に努めています。

Q5

パートタイマーの処遇改善について

A5

(代表取締役社長 中山)

現在パートタイマーの処遇改善のみならず、従業員全体の処遇改善の検討に入っています。新設の物流センターには必ず託児所を設けており、パートタイマーの方も子どもを預けるのに困らないような環境整備を行っております。また当社では保養所や新しい制度である「積休バンク制度」もパートタイマーの利用が可能となっています。正社員登用も認めていることから、決してパートタイマーを冷遇する企業ではないことをご理解いただけますと幸いです。

Q6

株主総会 大阪会場開催の再開について

A6

(代表取締役社長 中山)

現状再開の予定はしておりません。





Q7

株主様優待制度、配当性向について

A7

(代表取締役社長 中山)

優待費用の総額が拡大し続けることを非常に危惧をしており、2020年に廃止の決断に至りました。今後は株主優待費用を設備投資に充て、会社の機能を高め、売上高や利益も拡大し、配当も増やして株主の皆様喜んでいただけるような企業づくりを目指します。現在成長に向けての投資が目白押しの状況であり、配当性向についても25%から変更の予定はなく、自社株買いも行う予定はありません。

Q8

ウクライナ問題について

A8

(代表取締役社長 中山)

業績への影響については現状分かりません。ただ当社は在庫を約430億円分保有しておりますので、豊富な在庫が助けになるのではないかと考えています。

Q9

円安の進行による影響について

A9

(代表取締役社長 中山)

当社としては円安が直接影響するわけではありませんが、仕入先様からの値上げ要請をいただいた際にはタイムリーに販売価格に転嫁しています。

Q10

ガソリン価格の影響について

A10

(代表取締役社長 中山)

当社ではガソリンの支出額が年間で約1億円程度です。経費全体から見れば0.3%程度ですので、現在ガソリン価格が高騰したことを論じるほどの影響はなく、心配はしていません。

Q11

サイバー攻撃へのセキュリティ対策について

A11

(代表取締役社長 中山)

当社のセキュリティーシステムは5重構造になっており、ファイアウォール、不正アクセス防御、ウイルス対策ソフト、迷惑メールブロック、ウェブフィルターと5重の関門を抜かなければならない構造のため、今のところ大きな問題にあたったことはございません。

## 会場質問

Q12

将来的にAIが普及した際に、従業員の人員数などがどのように変わっていくか、考えを聞かせてください。

A12

(代表取締役社長 中山)

人間は、AIを使ってどのようにして良いサービスを生み出していくのかを、考えていくべきだと思っています。そのため、人を減らすことはありません。一方、物流センターでは物流機器とAIを組み合わせながら、できるだけ少ない人数で仕事ができるようこれからも工夫していきます。

Q13

配当性向について、25%は低いと感じています。30%を目指すなど、今後の考え方を聞かせてください。

A13

(代表取締役社長 中山)

業績を上げて、株価も上がるように投資をしていきたいと考えています。もうしばらく投資は続きますが、峠が見えないわけではないので、期待し続けていただきたいと思います。

